

◇ 学校のシンボル ◇

《ナンキンハゼ》（トウダイグサ科）

中国原産の落葉高木で、夏に若枝の先に総状花房を付け、秋に実が完熟すると裂けて、白く蠟質を被った3個の種子を出す。樹齢160年以上、高さ20m、直径70cmで、校庭の南東に立っており、本校の歴史をじっと見守っている。

日本の北限ともいわれ、県内では希少価値である。著名な植物学者 関本平八郎先生が、本校在職当時に植栽されたものと伝えられる。

1982年に宇都宮市の名木に選ばれている。

幹の一部に空洞が見つかったので、1993年、県林業センターの樹医に診察を依頼し、指導をいただいた。根回りの養生として、土の掘り起こし、堆肥入れ、保護棚設置をPTAの奉仕作業で実施し、福田嘉男氏の寄贈により、木製の看板を設置した。



《藤》（マメ科）



1918年頃、新里1区の青年団の人達が、姿川の上流から直径10cm位の藤を採取し、現在の地に移植したものと伝えられている。4本の藤は、高さ約3m、藤棚の面積は120㎡あり、春は揺れる長い花房が美しく、夏は憩いの緑陰となっている。また、折々に児童と教師、スポーツ少年団等の休憩所にもなっている。

1983年、藤棚を擬木コンクリートと鉄骨に改装する。1993年、根廻り土を掘り起こし、堆肥入れ等の養生を行い、現在に至っている。